

すぐできる！ からす対策

1 ごみの出し方を工夫する

- ◎ 生ごみを少なくしましょう
生ごみはからすにとって、主要な食料となっています。まず、生ごみの量を少なくしていくことが大切です。
- ◎ 生ごみを見えないようにしましょう
からすは目で食べ物を探すとされています。生ごみを紙に包むなどして、外から見えないようにすると、ごみ散乱等の被害を減らすことができます。
- ◎ ごみ出しの時間を守りましょう
からすは日の出の30分程前から活動を始めるため、前夜からごみを出さないようにし、からすとごみの接点を少なくすることも効果的です。

2 防除器具を使ってみる

最近では、からすの習性などに着目した防除器具が市販されています。防鳥用ネットや、目玉風船、風車などが代表的なものです。

また、不要となったCDに、ひもをつけて庭先につるすなど、自分で作る方法もあります。からすが止まりそうな場所（ベランダの手すり等）に釣り糸を張るのも安価で効果的な方法です。

ただし、からすは非常に学習能力に優れた生き物ですので、すぐに慣れてしまうこともあります。いろいろな方法を試してみましょう。

3 えさやりをやめる

公園などではとや野良猫などにえさを与える光景をよく見かけます。近年、はと等に混ざってえさを食べているからすも目立つようになりました。

えさやりをすることで、からすは、人がえさをくれるものだと思い、人を恐れなくなります。

天敵がいない都会のからすは、えさやりをすることで個体数が増え、人に被害をもたらす原因となっています。人と野生動物の関係は、適正な距離を保つことが必要です。

えさやりは、絶対にやめましょう。

からすによる被害を防ぐ

4 つ の 対 策

- 1 ごみの出し方を工夫する
- 2 防除器具を使ってみる
- 3 えさやりをやめる
- 4 巣の材料を提供しない

4 巣の材料を提供しない

からすは、さまざまなもの（木の枝、針金ハンガー、ひも類、プラスチックや紙くずなど）を利用して巣を作ります。

巣づくりをさせないためには、こうしたものを放置して、からすに巣の材料を提供しないことが大切です。

地域で一体となった取り組みを！

からすの被害を減らすためには、地域ぐるみで協力し合い、取り組みを広げていくことが大切です。

皆様のご協力をお願いします。